

今日のトピック 良好な豪州経済（2018年6月）

景気は拡大基調、インフレは低い水準で安定する豪州

ポイント1 市場予想を上回った成長率 輸出と設備投資が回復

- 2018年1-3月期の豪州の実質GDP成長率は前期比+1.0%、年率では+4.2%となり、市場予想の前期比+0.9%を上回りました。資源や穀物価格の上昇に支えられ、輸出、民間設備投資が回復に転じたためです。
- 企業の採用意欲は根強く、雇用増→消費増→設備投資増→人員増強という好循環が見込まれ、今後も豪州経済は堅調に推移すると予想されます。

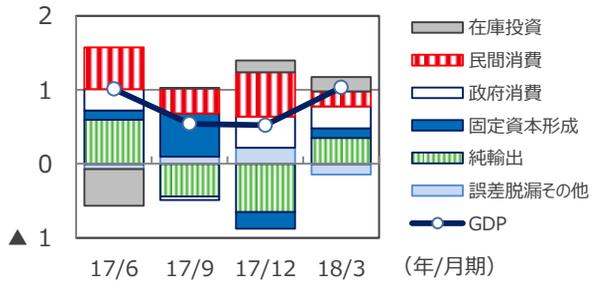
ポイント2 金融政策は中立を維持 利上げを急ぐ必要性は低い

- 経済は好調ですが、物価は落ち着いています。18年1-3月期の消費者物価指数（異常値を除外したトリム平均値）上昇率は、前年同期比+1.9%と、豪州準備銀行（RBA）の目標レンジである+2～+3%を下回っています。
- RBAは、6月5日開催の金融政策決定会合で、政策金利を1.50%に据え置きました。声明文によれば、RBAは18年、19年とも+3%程度の経済成長を見込んでいますが、物価上昇率については、賃金の伸び悩み等から、しばらく低い水準で推移すると予想しています。これを踏まえると、政策金利は当面、据え置かれる見通しです。

今後の展開 豪ドルは堅調に推移しよう

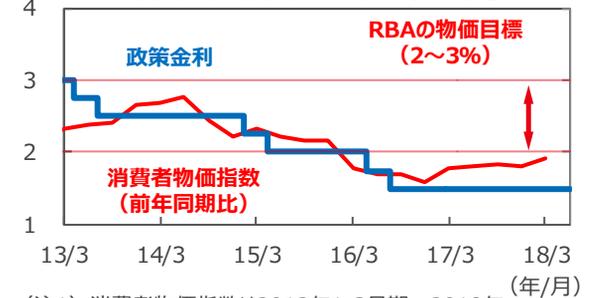
- 足元の豪ドルの対円相場は、緩やかに持ち直しつつあります。堅調に推移する商品市況と豪州景気、豪日間の金利差拡大といった良好なファンダメンタルズが再認識されたためと考えられます。今後も、豪ドル相場は底堅く推移する見込みです。

【豪州のGDP成長率と寄与度】



(注) データは2017年4-6月期～2018年1-3月期。成長率は前期比。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【消費者物価指数と政策金利】



(注1) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2018年1-3月期。消費者物価指数はトリム平均値。
(注2) 政策金利は2013年3月31日～2018年6月5日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【豪ドルの対円レートと日豪金利差】



(注1) データは2015年1月2日～2018年6月5日。
(注2) 金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも 2018年5月23日 堅調に推移する豪州経済（2018年5月）

チェック! 2018年5月 1日 豪州の金融政策は引き続き据え置き（2018年5月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。